

知的・精神障害者のやる気支援

事務職就職夢じゃない

東京に専門ビジネススクール開校



パソコン訓練は順調という一東京板橋区、フェスティナラテ

知的・精神障害者も企業で事務職として働きたい。そんな思いに応え、職業訓練から就労までサポートする専門ビジネススクールが今春、東京都板橋区に開校した。18歳から40歳まで十数人の受講生が学んでおり、「全国のモデルになれば」と意気込んでいる。

スクール名は「フェスティナラテ」で、マンツーマンできめ細かいサポート。ラテン語でゆつくくコーチする場面が多いことぐり急ぐという意味だ。知的障害らしいだ。

の娘を持つ佐藤悟社長が中心と。受講生の男性(19)は「事務の仕事をやりたいので、パソコンの使い方を教わりたい。仕事があるなら何でもやります」。無料または低料金で受講できる。

朝礼に始まり、午前はビジネススマナージが2コマ、午後はパソコン教室が3コマ。受講生はクールビジネスながらオフィス勤務と変わらない服装で、テキストなども普通の職業訓練校と同じ。受講生のレベルに応

「全国のモデルにしたい」

無料または低料金 きめ細かい指導

指導員を務める。「(障害者でも)できるということをアピールしたい」と話す。11歳の自閉症の娘がいるパーソンス優美子さん(39)は「ぜひやりたいと思った」と、パソコン講師の資格を生かし訓練を担当している。パソコンは全員順調に習得しつつあり、課題は仕事をする上でコミュニケーション力をどう付けてもらうかだという。そのため、同じビル1階にある洋品店の社長や、社会保険労務士らを招き、実際の仕事について話を聞ける場を設ける試みも始めた。

ただ、知的・精神障害者の雇用はなかなか広がっていないのが現実だ。施設長の高原浩さん(43)は「ハローワークと連携して就労先の開拓を始めたい。就職後も定着支援を行ってフォローしていきたい」と話す。

佐藤社長は「ノウハウさえ分かれば地方でも事業化は可能だ」と思う。今後は同じような施設の設立支援もやりたい」と考えている。

朝礼に始まり、午前はビジネススマナージが2コマ、午後はパソコン教室が3コマ。受講生はクールビジネスながらオフィス勤務と変わらない服装で、テキストなども普通の職業訓練校と同じ。受講生のレベルに応

男(20)を育てた経験を生かし、

鳥久美子さん(50)は障害者の長

「夢だった息子の就職がかなったのはいろいろな人のおかげ。それをお返ししたい」。副

「夢だった息子の就職がかなったのはいろいろな人のおかげ。それをお返ししたい」。副

「夢だった息子の就職がかなったのはいろいろな人のおかげ。それをお返ししたい」。副